

生きる力を豊かにたくましく



あいほうぷだより

新施設長の挨拶

NO. 268 責任者 仁木 悟

2025年度がスタートしました！地域の皆様に支えられてあいほうぷ吹田は25年目の年を迎える事ができました。あらためて感謝申し上げます。

4月より新たに施設長になりました仁木と申します。私はあいほうぷ吹田が開所した年に入職して現在に至るまで、20年以上というほとんどの期間をあいほうぷ吹田で勤務してきました。障害者福祉に関わる制度もこの長い年月で良くも悪くも様々な変化を遂げて、そんななか私自身、あいほうぷ吹田の利用者・家族・スタッフ、そして地域の皆様と共に苦楽を共にしながら成長させて頂きました。そんなあいほうぷ吹田の紆余曲折を



体感してきた強みを活かして、施設長というお役目を精一杯務めさせていただきたいと思う所存です。どうぞよろしくお願い致します。

当施設の周りには花壇があり、四季折々の植物が出迎えてくれます。夏にはお祭りであいほうぷ吹田の利用者と共に楽しみ、交流しましょう。年に数回あ

いほうぷ吹田の授産製品販売「青空市」も開催されます。平日のお昼にはボランティアさんが喫茶を運営してくれています。美味しいコーヒーはいかがですか？ちょっと雨宿りで寄って頂くだけでも大丈夫です。ぜひお気軽に障害者支援交流センター「あいほうぷ吹田」にお立ち寄りください。

施設懇談



先月号でお伝えした、要望書を踏まえて施設懇談を行いました。ここあいほうぷ吹田では利用者の要望を施設長に直接伝える場を持っています。

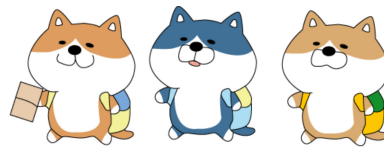
今年度は、「備品(オープンレンジや部屋のカーテン)が汚れているので買い換えてほしい」という意見や「旅行に行きたい」「抹茶の取り組みがしたい」など楽しい取り組みへの要望、また「スタッフを増やしてほしい」など切実な内容もありました。うまく言葉にでき

ない利用者もいる中、職員がいかに利用者の思いを汲み取れるかが大切で、日ごろから利用者との会話や利用者の仕草など一つひとつに目を向けて思いを形にできるよう職員が支援することが利用者のより良い生活に繋がっていきます。また、利用者自身も自分の要求が実現するという体験を積み重ね、自己実現の機会となっています。今後も早期の要望の実現に向けて施設にアピールしてもらいます。



フラカード、マイクでアピール！

温かくなって、動物達とたわむれました!!



。。。。 中村作

3月14日に、今年度最後のピース班の所外活動は「神戸どうぶつ王国」へ行きました。お天気にも恵まれ、気持ち良い気候の中、ゆったりと園内を回りました。

羊やアルパカにおやつをあげたり、カピバラを撫でてみたり、放し飼いの鳥がひぎに乗って来たり……。様々な動物たちと触れ合う事が出来ました。

普段堂々としている利用者がおやつをあげる時に、必要以上に腰が引けたりする場面がありました。また、いつもはみんなの陰に隠れている人が、積極的に動物に関わりに行ったりと普段は見ることないみんなの一面が見れました。



みんなでパシャッ!!



上：羊の餌やりで、自分も「アーン」(笑)
左：怖い狼もガラス越しなら笑顔に

介護リフトを ご存知ですか？

介護リフトは、被介護者のベッドから車椅子などへの移乗や、部屋から部屋への移動などに利用できる福祉機器です。人の力を必要とせず、リフトの力を使うことで、介護者の労力を大幅に軽減することができます。特に、腰痛予防にはてきめんです。介護リフトは、主に、リフト本体と、リフトの移動を支えるレール、そして、被介護者を包み込むネット状の吊り具、吊り具を引掛けるハンガーからなっています。

当施設では、介護リフトを積極的に使用して

います。利用者の皆さんが吊り具で包み込まれたときの笑顔が印象的です、職員の腰痛予防にもなっています。



← 床走行リフト



浴室、一部居室には天井走行リフトが完備されています

小高さんと一緒に考えよう

小高さんが新聞で読んだ記事に、南相馬市にある、小高駅という同じ名前の駅の近くにある旅館の話がありました。今回はそのお話を紹介します。



名前は「双葉屋旅館」、玄関前にはプランターに植えられた沢山の花が出迎えてくれるアットホームな旅館だという事です。東京電力の福島第一原発から約15キロの位置にあるそんな旅館のある街は、東日本大震災から5年間、避難指示の為、無人の街でした。

そんな旅館の壁には、放射線量を毎年住民らが測定し、赤から青まで色分けした手作りの地図が掛かっているそうです。「自分たちの街は自分たちで守りたい」という思いで、復興に向けて前へ進んでおられます。

この双葉屋旅館の4代目女将を務める小林友子さんは、地域の復興や帰還のハブとして、いち早く営業を再開されました。厳しい現実と向き合い、放射線量の測定を続け、街の復興に全力

を尽くしておられます。原発回帰に疑問を呈する彼女は「歴史を忘れるなら、未来はありません」と言われています。

村上春樹さんがスペインのバルセロナでカタルーニャ国際賞授賞式の時にされたスピーチでも触れられた、広島にある原爆死没者の慰霊碑に刻まれている「安らかに眠って下さい。過ちは繰り返しませんから」という言葉があります。このような言葉を小林さんは噛みしめている様に思えてなりません。「素晴らしい言葉です。我々は被害者であると同時に、加害者でもある。そこにはその様な意味が込められています。」ともそのスピーチで言うておられました。小林さんも単なる被災者としてではなく、当事者として歩みを進められています。

そんな彼女の事を知った時、「どん底に大地あり」という言葉を小高さんは思い出されました。この言葉はどん底の状況からこそ幸福は生み出され、育て上げられていくという思いから、長崎の復興に尽力した永井隆さんが原爆で親族を失い絶望する帰還兵に言った言葉です。

「このような頑張る方を応援する事で少しでも力になりたい」と小高さんは思っています。

大阪成蹊短期大学より 実習の学生が来ました！

実習生からの感想文です。

10日間の実習を通して施設の方と過ごさせて頂き、様々なことを学ぶことができました。

例えばバリアフリーについてです。利用者の方と買い物に行った時に考えさせられました。特に、段差や道の広さなどバリアフリーがどれだけ障がいのある方にとって重要なのか気付くことができました。

利用者の方と職員の方の明るい雰囲気の中、

毎日楽しく実習することができました。今回の学びをこれからも大切にしていきたいと思います。10日間本当にありがとうございました。

大阪成蹊短期大学 幼児教育学科 坂本麗奈



実習生が来てくれると、利用者の皆さんも楽しそう!!

プール・介助浴室を開放しています

土曜日、日曜日はあいほうぶ吹田の温水プールと介助浴室を一般の方に開放しています。

プールや入浴は、リハビリにも効果的です。ぜひご利用ください。

利用できる方：吹田市内にお住まいの障がい者手帳を

お持ちの18歳以上の方とその介助者。

プールは18歳未満の方も利用できますが、18歳以上の介助者の同伴が必要です。

利用時間：10時～16時

注意事項

プール利用について

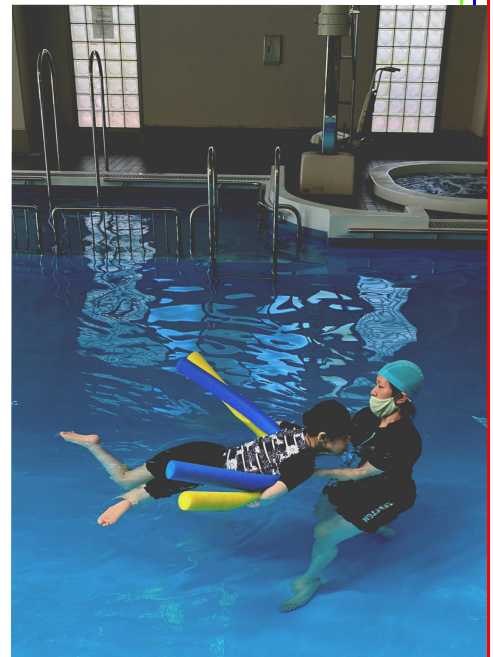
- ・混雑を避ける為に定員を設けています。
- ・スイミングキャップが必要です。
- ・受付で障がい者手帳を提示し、手続きをしてください。
- ・観覧者はマスクをして、廊下からご覧ください。
- ・採暖室と更衣室(シャワー室を含む)の利用は原則1組に限ります。

介助浴室利用について

・介助浴室の利用は、予約制で、原則前日の17時までです。

・原則1時間に1組。

*ボディソープ、シャンプーはご持参ください。



多目的ホール・会議室が 利用できます

(土日9時～17時)

障がい者団体あるいはその支援団体、ボランティア団体などの活動の場、交流の場として利用できます。(事前登録が必要)

青山後記

三十数年前、吹田の地で重介護施設作り(障害の重い方々の日中活動の場作り)運動が進められ、多くの請願署名が市議会で採択され、この多くの願いが「あいほうぶ吹田」という形で、当時、先進的な施設としてこの地に建設されました。「光陰矢の如し」と言わんばかりにその運動の原動力となった障害の重い利用者の皆さんも、主たる介護者の高齢化等の理由でこの数年、一人また一人と他施設に入所されていきます。この様に時の流れを実感させられていますが、私もこの三月で定年となりました。皆様お世話になりました。この事業所で二十年勤め、その間、子供は成長し、孫もいる生活環境となりましたが、引き続き嘱託で関わっていく予定です。



吹田市立障害者支援交流センター あいほうぶ吹田

(吹田市指定管理者 社会福祉法人 さつき福祉会)

吹田市千里万博公園12-27

生活介護事業 06-6816-6895 短期入所事業 06-6816-6897

メール i-staff@s5.dion.ne.jp ファックス 06-6816-6898

ホームページ <http://satuki-fuku.sakura.ne.jp/ihope/index.htm>